



なぎさっ子の一ヶ月 ～光と風と歌声と～

なぎさ公園小学校
副校長 福原之織

「～ ゆかいに歩けば歌もはずむ、おひさまきらきら風も青い」こどもたちの大きな声が、講堂に響きわたります。なぎさ公園小学校の一日は歌声で始まるのです。第1期生60名のなぎさっ子は、今日も元気いっぱい。明るい初夏の陽射しをあびて輝くピカピカの教室で、のびのびと育てています。

花いっぱい、歌いっぱいの入学式

入学式は花曇りの4月5日、強い風に桜の花びらも散り始めた少し肌寒い日でした。真新しい制服を身にまとったなぎさっ子。緊張気味の表情も、前日のリハーサルですっかり仲良くなった附属中学校のおにいさん、おねえさんに優しくエスコートされて徐々に和らぎました。式次第は全て音楽で進行されるというユニークな形態でしたが、附属中学・広島高校の吹奏楽部、室内楽部、合唱部による生演奏があたたかい雰囲気を出し、「こどもが主役」というスタイルが列席者に大変好評のようでした。花いっぱい、歌いっぱいの入学式は、なぎさ公園小学校の伝統になることでしょう。



想いを込めた教育を

広島西部地区で初めての私立小学校。広島市内初の私立共学小・中・高一貫校。そして鶴学園にとっても初めての初等教育校ということで、本校設立には多くの関心が寄せられました。しかし私たちスタッフの知識や経験は、小学校開校という場で起きる様々な問題において決して十分なものではありません。それは準備にあたる者にとって大きな不安であり、時にプレッシャーにもなります。けれども、こどもたちに想いのたけを込めた教育を注ぎ込むという熱意こそが、それらの壁を乗り越える力になっていくことを今、改めて

実感しています。



例えば校舎、教室のレイアウト、制服のボタンにいたるまで、こどもたちが何を学び、身につけていくのかというねらいと仕掛け。オリジナル教材の準備、行事計画と教育プログラムの連動、そしてこどもたちの生活の中に織り込む人間性、感受性の錬磨。こういった作業と工夫の積み重ねが、学校と教育活動の基盤になっていく。これらは開校という機会にのみ味わえ得る貴重な経験です。

自然と共に、季節と共に

それでは本校の特色とはどういうものか、なぎさっ子の生活からいくつか挙げてみましょう。

なぎさ公園小学校で空を見上げると、ひばりたちのおしゃべりと、たわむれが4月からひっきりなしです。木々の緑や、窓からの斜光なども様々に変化し、蝶や虫たちの訪問はこどもの歓声を誘っています。こういった環境の中で、危険や慎重さを教えながらも、四季の移ろいと共に何かを感じる力を養いたいと、私たちは強く意識しています。

本校の行事が、二十四節気の流れに沿っていることもその表れの一つです。4月19日は20日の穀雨に合わせて「穀雨祭」を行いました。講堂に集まり、いのちを感じるいくつかのワークショップと歌、そしてジャガイモの話で構成された楽しいセレモニーのあと、学級園にジャガイモを植える作業をしました。小雨の中、馬糞を練りこんだ肥料と土を混ぜ、芽の出たイモを置いていくという作業を、皆ていねいに真剣にとりくみました。泥まみれの手をうれしそうに高くあげてこどもたちの顔は輝いていました。

穀雨の作業は、7月に行う芋掘りにつながります。夏至の球技大会、大暑の水泳大会、立冬の写生もみじウォークなど、季節の行事は五感を刺激するプログラムとなっています。

このほかにも沼田校舎や八千代校舎を存分に利用するプロジェクト学習では、冒険遊びや複合教科による特別プログラムが思い切り展開されます。風のおい、土のぬくもり、生き物との出会い、仲間との連帯と協力。自然と共に、季節と共に繰り広げられる手作りの授業は、こどもたちの感性と知恵を引き出す、すばらしいステージになるのです。



『お話は目で聞く』

小学1年生と一口に言ってもそこにある個人差は相当なものです。スタッフの中には中学、高校の個人差との質の違いに驚き戸惑った者も少なくありません。こどもたちが学校生活のリズムに慣れ、年齢に応じた自立ができるよう、いかに指導していくか。活動内容や時間設定の工夫に、本校の教育が目指すものをしっかりとしみこませておく必要があります。それは私たちの教育活動の基盤になるものです。

1年生がお話に集中できる時間は通常20～30分といわれています。なぎさっ子1年生も、ざわついて落ち着きがなく、お話をしっかり聞くことが難しい状況に陥ることがあります。そんな時、教師が一言。「お話は？」こどもたちがいっせいに答えます。「目で聞く！」

『お話は目で聞く』は、なぎさっ子1年生の学年目標。こどもの集中力を高めるための工夫であると同時に、相手の心に自分の心を真剣に向けようというねらいが含まれています。私たちは言葉を受け取るとき、その人の想いも受け取っているからです。このような

聞く訓練は、授業だけでなく生活全般における学びや思考の基礎になる重要な力を養うものです。こどもたちは朝の会でしっかり歌った後も、体育で運動した後も、上手に切り替えて「お話を目で聞く」習慣ができつつあります。

ランチの庭の日々の糧

ランチタイムには協力してテーブルセッティングを



行います。机を寄せ、大きなテーブルクロスを広げる。1年生の小さな体には、これが結構大変な作業です。またお天気のいい日には「ランチの庭」で木のテーブルを組み立て、各自がランチョンマットを並べます。青空のもと、小鳥のさえずりや木々のそよぎを感じながらいただくお弁当は格別です。毎日のことで手間がかかるのではと、教員も最初のうちは様子を注意深く見ながら手助けしていました。しかし1ヶ月を経た今、こどもたちは自分たちの知恵と力を使って、なぎさっ子のランチタイムを楽しんでいます。ランチの庭で得る糧はお弁当だけではないようです。

試練をチャンスに～なぎさ公園小学校の使命

私学の教師は何よりも自己創造力を命とします。教材発掘や授業法の開発、また自主編成のシラバス作りに力を注ぐことが求められます。1年生から教科担任制を敷く本校では、6ヵ年シラバスの充実と発展が学校の未来の大きな鍵になることは間違いありません。オリジナル教科やプロジェクト学習はもちろん、どの教科も魅力ある授業作りに力を尽くし続けることが大切なのです。なぎさ公園小学校は「私学らしい私学教育」を「想いを込めて」実現する学校です。教員にとってこれほどの試練はありません。そして同時にこれほどのチャンスはないと言えるかもしれません。試練をチャンスとし、現代という厳しい時代にあって、未来への希望が生まれる場。附属中学校・広島高等学校へ接続する小学校として使命と責任を持って、こどもたちの可能性を広げる教育現場となるよう、努力を続けたいと思います。

